

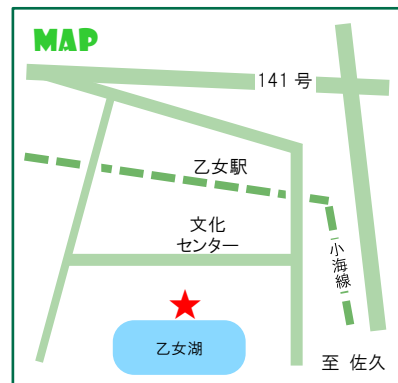
# 本の小途

Vol.16

2023.春夏号



特集  
あらためまして 本途人舎です



=表紙写真=  
乙女湖ほとりのキョウブ、あるいはカキツバタ。(2018年6月撮影)

二〇一九年夏に創刊したこの「本の小途」もおかげさまで五年目を迎えることができました。  
記念すべき創刊号の表紙は今号と同じ乙女湖公園でした。公園内の野鳥の森で瑞々しく茂る木々の中にポツと佇む茶色のベンチを見つけた時「これだ！」とカメラを持つ手に力が入ったことを覚えています。  
思い返せば、自分にとって乙女湖は学生時代、一番訪れた場所かもしれません。特に中学生の頃はテニス三昧だった自分ですから、大会や部活はもとより、仲間内でお金を出し合いテニスコートを借りることも度々ありました。空き時間に公園の探索もたくさんした記憶があります。それでもあの木立の中のベンチを知らずにいました。時を変え、目的を変えてみる——そうやって出会えたあのベンチは、目的を変えて巡る楽しさを教えてくれたきっかけでした。

## ～本途人舎よりお知らせ～

### あたらしいおしごと

2023年4月から本途人舎は新たに「小諸市 市民交流センター」「こもテラス」の運営・管理一部業務を受託しました。図書館とあわせて皆様のご利用をお待ちしております！



集中できる学習室も

「小諸市 市民交流センター」  
約200名が入れるステラホール、人数に合わせて選べる会議室、スタジオはバンドの練習も音を気にせず出来ます。用途に合わせたご利用が可能。  
⇒小諸市相生町3-3-3 (図書館2階)



ピアノは時間によって演奏できます

「こもテラス」  
愛のりくんの待ちあいだけでなく、ちょっとした世間話に花を咲かせるのもってこい。公園のような居心地で過ごせます。  
⇒小諸市相生町2-2-2

参加の様子 5/20 (右)、5/21 (左) 両日とも販売だけでなくおはなし会もありました！

マルシェに参加しました  
五月に市内で行われたふたつのマルシェに参加してきました！  
それぞれ大手門とまちタネ広場で行なわれたマルシェですが、本メイン、ワークショップ、メインと来場者の違いを感じつつ、楽しい一日となりました。

Facebook

### 賛助会員 募集のお願い

わたしたち本途人舎は本と人、過去と未来をつなぐ活動をしています。わたしたちの活動へのご支援を募集しています。

年会費 (個人) 一口3,000円 (団体) 一口10,000円

- 銀行振込  
振込先: 特定非営利活動法人 本途人舎 (名義名: ホントヒトシャ) 八十二銀行 小諸支店 普通 口座番号 1128420  
※新規で振込にて申し込みをされる方は、お手数ですが本誌奥付のメールアドレスまでご一報下さい。
- 本途人舎メンバーに直接お渡ししていただくことも可能です。

### 今月の元標 (第6合目) ふたたび

小諸へなんのために行くかといえば、大久保彦左衛門忠教の足跡を追うためである。

『春秋の色』(宮城谷昌光 著/講談社/1994)  
「彦左衛門と小諸」より P.150~154  
宮城谷昌光・小説家。小説執筆のための調査のため、小諸や東信各地を訪れた。同エッセイでは、大久保彦左衛門の足跡を辿った時のエピソードが書かれている。

「元標」とは浅間山に登る人のための道しるべのことをいい、小諸八幡神社を起点に全10合で出来ています。

### メンバーおすすめの1冊

選んだ人 依田 彩佳

「やまのかいしゃ」  
スズキコージ さく  
かたやまけん え  
福音館書店 (2018.5)

朝寝坊をした会社員のほげたさんは、急いで電車で飛び乗ります。しかし車窓から見える景色はいつもと違うではありませんか。ほげたさん、会社とは反対方向に乗ってしまったのです！しかも足にはトイレのスリッパ、さらに鞆もないことに気がきました。奇想天外なほげたさんの行動に驚きつつもほげたさんのような人生に憧れてしまう……そんな絵本です。

### 編集後記

紫陽花の季節に移ろい、人も植物もすっかり夏に向けて様変わりしました。今年はどんな夏になるのでしょうか。あんまり暑すぎないといいなと思いつつも、夏らしい夏になるといいですね。(Y&K)

# あらためまして、本途人舎です

2018年7月31日 NPO法人 本途人舎設立から5年。市立小諸図書館一部業務委託も2期目に突入しました。  
改めて、私たち本途人舎のメンバーをご紹介します！！

- ①今気になっていること
- ②抱負をひとこと
- ③おすすめ本のタイトルとおすすめポイント



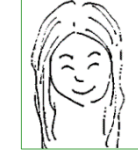
## 睡眠の科学が気になる 大林

- ①臨場感あふれる夢を見ているときの睡眠状態
- ②本の可能性、図書館の可能性を広げていきます！
- ③『「地区の家」と「屋根のある広場」』  
小松尚・小篠隆生／著（鹿島出版会）  
まちが楽しくなる、暮らしが楽しくなる、豊かになる、そんな営みをそこに暮らしている人たちの手で創っていきたくと、背中を押してもらえる本。



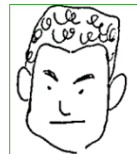
## 税金の制度が気になる 井出

- ①インボイスについて
- ②事務処理を的確に出来るよう頑張ります！！
- ③『ランプシェード』松岡享子／著（東京子ども図書館）  
昨年1月に亡くなられた松岡享子さん（児童文学者・翻訳者・前東京子ども図書館理事長）が日々の想いを綴られたエッセイ。子ども達と本を結びつけることに人生を費やした松岡先生の強い想いが伝わってきます。



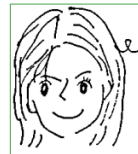
## ガーデニングが気になる 竹内

- ①ターシャテューダーの庭に憧れて、ガーデニングを始めてから20年が経ちました。休日は、庭の手入れに励んでいます。
- ②「安んじて事を託さる人となれ」この言葉のような何事も安心して任せられる人、人から信用され信頼される人になりたいです。
- ③『ターシャの庭』ターシャ テューダー /著（KADOKAWA）  
絵本作家ターシャ テューダーが一人で作りあげた、世界中のガーデナーが憧れる美しい庭の写真集です。



## 断捨離が気になる 橋詰

- ①部屋の片づけ。思い切って断捨離したい。
- ②まだまだ知らない事ばかりなので、日々勉強する謙虚さを忘れずに頑張ります。
- ③『戦国時代劇メディアの見方・つくり方』  
大石学・時代考証学会／編（勉誠出版）  
ドラマやゲーム等の時代劇メディアをより楽しめる、様々な情報背景が載っています。ちょっと違う視点を持ちたい方にオススメ。



## おいしいものが気になる 塩川

- ①色々な飲食店にチャレンジしたいです。
- ②新しい分野への興味が広がるような企画展示を作りたいと思っています。
- ③『かわいい古代』譽田亜紀子／著  
（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社光村推古書院書籍編集部）  
縄文～古墳時代の、作者が選んだ「かわいい」遺物71点。実物の写真が主で勿論オールカラー。ゆるかわな癒し系が多いです。



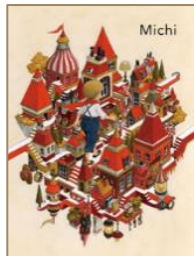
## 街中の変化が気になる 古川

- ①日々変わる街中の様子。新しくなるお店を知りたいです。
- ②笑顔で丁寧な対応を心掛けたい。
- ③『ワーズハウスへようこそ』篠崎晃一／監修（金の星社）  
普段何気なく使っている日本語が間違えているかも？そんな言葉の数々を4コマ漫画でわかりやすく解説してくれます。外国の方には通じない和製英語も掲載。



## 草取りが気になる 田中

- ①実家の庭は花盛り！雑草も元気いっぱい！
- ②いつもにこにこ、真心こめて対応します。  
子どもたちに楽しい読書体験をお届けしたい！
- ③『Michi みち』junaida／著（福音館書店）  
文字のない絵本。真っ白な道の先にある色々な街を旅しながら、見た人が思い思いに空想を広げて自分だけの物語を楽しめます。



## 街中に出来ている新しいお店が気になる 木内

- ①小諸の街中にできている新しいお店
- ②かわいい本屋さんを作りたい。
- ③『宙ごぼん』町田その子／著（小学館）  
理想の母親とはかけ離れた母親との付き合い方の、子どもの想いの落としどころがおもしろいです。母の想いと娘の想いが、どちらも自分の気持ちを代弁してくれてるようで。



## 紙の種類が気になる 依田

- ①本の日焼け対策にブックカバーを装着中。使う紙に迷っています。
- ②まずは取りこぼしのないように、後悔のない仕事をしたいです。
- ③『過去と未来とわたしたち』  
藤沢 健太／文、佐々木マキ／絵（福音館書店）  
わたしたちのカラダは約30種類の原子からできています。それはもしかしたら過去の偉人たちからもらった原子かもしれません。命や時間に思いを馳せたくなる1冊です。



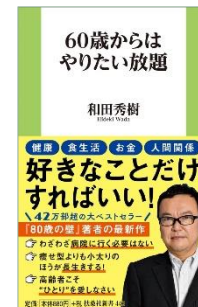
## 徳川家康が気になる 大池

- ①江戸幕府260余年の礎を築いた徳川家康
- ②コロナ禍で、人との繋がりがどれだけ大事だったか思い知りました。できる範囲で以前のような生活を少しずつ取り戻したいです。
- ③『がんばった15人の徳川将軍』房野史典／著（日本実業出版社）  
徳川15将軍のうち、小諸にも縁のある2代目秀忠は、関ヶ原で失敗したけれど、実はけっこうな仕事をしていたのだ！知ってみるとスゴイ…砕けすぎている解説は、小学生から大人まで面白く楽しく学べます。



## 雑草の成長が気になる 鈴木

- ①図書館の雑草対策。  
何とか見映え良くしたい！
- ②やるべきことは何かを考えて一つ一つ丁寧にこなしていく。
- ③『60歳からはやりたい放題』和田秀樹／著（扶桑社）  
人生は壮大な実験だと思ふべし、この言葉に勇気がもらえます。



## 野菜づくりが気になる 金子

- ①今年は家の畑でどんな野菜を作ろうか思案中。
- ②偶然なようで必然な本との出会いのお手伝いができたらと改めて思います。
- ③『松浦弥太郎の「いつも」』  
松浦弥太郎著 / (cccメディアハウス)  
“いつも”の積み重ねが大事と気付かされる本。

